

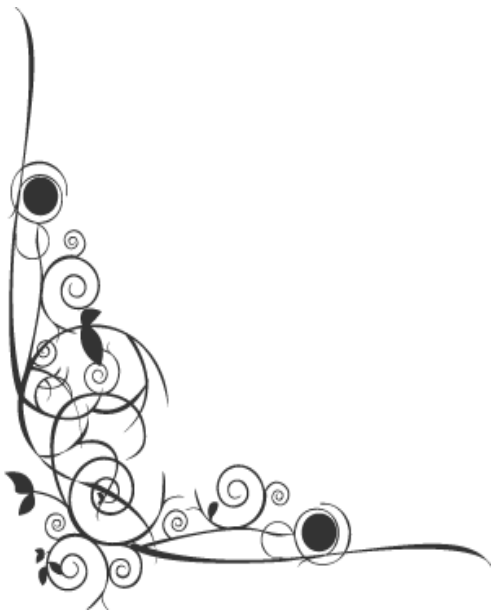
レクチャー・コンサート  
悼～日本の祈り・ヒロシマへの祈り～

ただ、祈りだけ……。声にならない声は、こうして一つ一つの音に託されてきた。生き残った被爆者たちの心の痛み、犠牲者への悼みの思い。被爆から70年を過ぎた今、声にならない声に改めて耳を傾けたい。

2016年7月9日(土)

18時30分開演(18時開場)

広島市南区民文化センター スタジオ



主催:「ヒロシマと音楽」委員会  
後援:公益財団法人広島市文化財団  
広島市文化協会、中国新聞社、中国放送  
テレビ新広島、広島テレビ  
広島ホームテレビ

∞∞∞∞∞∞ 本日の公演にあたって ∞∞∞∞∞∞

本日は、レクチャー・コンサート「悼～日本の祈り・ヒロシマへの祈り」へご来場いただき、誠にありがとうございます。

被爆から70年が過ぎ、人類の歴史に大きな禍根を残した原爆投下の実態を知る人びとの数は、日に日に少なくなっています。当時の様子を若い世代に語り継ぐことにより、その記憶を後世に伝え、核兵器のない世界を作るための模索も、被爆地の広島や長崎を中心に活発に行なわれています。

一方で、被爆の体験を生涯語ることなく亡くなった人や、70年を過ぎた今でもその体験を語れずにいる人も数多くみられます。あるいは、その時々抱いたさまざまな思いを表現する言葉が見つからないまま胸の奥にしまいこんでいる人もいます。そうしたなか、言葉ではなく「音」によってその思いを表現する人びとがいました。

本日のコンサートでは、被爆者でその後作曲家として活躍した人の作品を取り上げます。実は、被爆者の作曲家の数は非常に少なく、またほとんど知られていません。驚くことに、彼らの作品からは、原爆に対する怒りや恨みのような心情ではなく、亡くなった犠牲者に対する悼み、祈りの心情が強く伝わってきます。同時に、生き残ったことへの負い目が心の痛みとして深く刻まれているようにも思われます。こうした言葉にならない被爆者の思いを音を通じて想像することも、被爆体験を語り継ぐことにつながるのではないのでしょうか。

また、原爆犠牲者に関わらず、彼岸と此岸の隔たりを超えて死者との交流を求める心性は、先祖の霊を家に迎えて慰めるお盆の行事にもあるように、日本では古くからみられるもののようです。こうした日本の祈りの形を、ヒロシマへの祈りの音の中に見いだすことができるのではないかと思います。

本日ご紹介する作品は僅かですが、こうした「ヒロシマ」への祈りの思いを音のなかに求める場となれば幸いです。どうぞ最後まで公演をお楽しみください。

2016年7月9日

「ヒロシマと音楽」委員会  
委員長 能登原由美

「ヒロシマと音楽」委員会について

被爆50周年を機に「ヒロシマ」をテーマとする音楽作品のデータベース化を行なうために結成され、2006年には音楽作品のリストを掲載した『ヒロシマと音楽』(汐文社)を出版。現在もデータ収集のほか、コンサート活動や「広島の音楽史」編纂事業などを行なっています。詳しくはホームページをご覧ください。ホームページ:<http://hirongaku.com/>

## 作者について

竹西正志（たけにし まさゆき）

1932年広島市生まれ。作曲を池内友次郎に学ぶ。《混声合唱とピアノのための組曲「海」》で第16回文部省芸術祭奨励賞（昭和36年度）を受賞。ピアニスト池上郁氏の委嘱により《哀傷Ⅰ》を1978年に作曲、同年広島市で初演される。1982年には、NHKスペシャル「きみはヒロシマを見たか 広島原爆資料館」（第26回ライブツィヒ国際記録・短編映画祭受賞、第4回地方の時代賞映像コンクール受賞作品）のテーマ曲の依頼を受け、《哀傷Ⅱ》を作曲した。これら二つの《哀傷》は、「原爆が消した人びとを悼む一被爆者の曲」とされる（CD『彩 ピアノ音楽の現代』JILA-1436 解説より）。現在は神奈川県在住。

川崎優（かわさき まさる）

1924年東京生まれ。東京音楽学校（現東京芸術大学）器楽科（フルート）卒業後、フルート奏者として世に出るとともに、作曲家、指揮者として幅広く活動。第11回文部省主催芸術祭（昭和31年度）にて作曲賞（文部大臣賞及びNHK協会賞）受賞。また、ユネスコ研究員として渡米、ジュリアード音楽院にて作曲の研究を行う。数度にわたって招聘されたスイス・ウスター音楽祭では自作品を初演。また、1975年には広島市の委嘱を受けて《祈りの曲第1「哀悼歌」》を作曲。以降この曲は、毎年8月6日の平和記念式典で演奏され続けるとともに、《祈りの曲》の連作がライフワークとなる（現在、第7番まで完成）。常葉学園大学名誉教授、日本現代音楽協会名誉会員、日本フルート協会顧問。

福島和夫（ふくしま かずお）

1930年東京生まれ。独学で作曲を学び、武満徹、湯浅譲二らとともに1951年に現代音楽グループ「実験工房」を結成。ヨーロッパで盛んとなった十二音楽の美学を探求しながらも、禅や能に内在する東洋の思想を結びつけるなど仏教思想を基盤とした音楽を追求する。1958年、《アルト・フルートとピアノのための「エカーグラ」》で軽井沢現代音楽祭第1回国際作曲コンクール入選。同作品はストラヴィンスキーによっても絶賛された。1964年、《フルートとオーケストラのための「飛鏡」》で国際現代音楽協会世界音楽祭入選。1978年以降は作曲を行なわない一方で、日本音楽史研究者として多くの功績を上げている。現在は上野学園大学教授を務める。

三善晃（みよし あきら）

1933年東京生まれ。東京大学文学部仏文科卒。3歳の頃からピアノと作曲を始め、大学在学中に第22回日本音楽コンクール作曲部門第1位（1953年）、翌年には尾高賞（第3回、1954年）を受賞した。その後も受賞は数知れず、戦後日本を代表する作曲家の一人となった。作品は管弦楽曲から合唱曲、オペラにいたるまで幅広い。一方、10代で遭遇した戦争体験も創作に反映され、戦争犠牲者と生者の断絶を問う「レクイエム三部作」や、不条理に生を奪われた死者の涙に耳を寄せる「交響四部作」を発表する。また、広島原爆を題材にした合唱曲として、《混声合唱とピアノのための「その日、August 6」》がある。2013年10月逝去。

吉松隆（よしまつ たかし）

1953年東京生まれ。慶應義塾大学工学部中退。作曲を独学で始めた後、松村禎三に一時師事するが、同時にピンク・フロイドのコピーバンドに参加するなど、ロックやジャズの世界でも活動を開始した。以後、クラシックを基盤にしながらもロック、ジャズ、民族音楽などの要素を取り入れた創作を行なうとともに、調性や叙情性に美を求める作風で、クラシックのみならず幅広いジャンルの音楽ファンから指示を集めている。また、代表作の一つ《朱鷺によせる哀歌》をはじめ、鳥を題材にした作品の創作が非常に多いのも特徴の一つ。2011年にはNHKの大河ドラマ「平清盛」の音楽を担当した。

野村荃一（のむら けいいち）

1955年東京生まれ。依頼を受けて、おもに演奏家向けのレパートリーを作曲、提供する。またライフワークとして、初心者からショパンのエチュードへの接続までをカバーするピアノメソッド「ウラノメトリア」シリーズを刊行中（私家版、現在7冊）。「ウラノメトリア全曲アクセス」でウェブ検索すると作品試聴が可能。埼玉県蕨市在住。

橋爪文（はしづめ ぶん）

1931年広島生まれ。14歳の時、学徒動員先の広島貯金支局で被爆し、瀕死の重傷を負う。40代初めに病気で半年の余命宣告を受けたことをきっかけに詩作を開始。それらの詩は処女詩集『昆虫になった少年』（教育報道社、1985年）として刊行された。その後、詩の多くが小林秀雄、平野淳一、安達弘潮などの作曲家によって歌曲や合唱曲として取り上げられている。また、被爆体験を基にした詩作も始め、詩集『地に還るもの天に昇るもの』（砂子屋書房、2009年）で発表するとともに、被爆体験記『少女・十四歳の原爆体験記-ヒロシマからフクシマへ』（高文研、2011年）、『ヒロシマからの出発』（トモコーポレーション、2014年）を執筆。さらに、61歳でエジンバラに単身語学留学を果たしたのを機に、「反核・平和海外ひとり行脚」をはじめ。日本ペンクラブ、日本詩人クラブ所属。東京都在住。

【詩集】

『昆虫になった少年』（教育報道社）  
『乗り捨てられたブランコのように』（沖積舎）  
『海のシンフォニー』（レプ・タイ書房）

【体験記・エッセイなど】

『不思議な国のトルコ』（教育報道社）  
『フーモギの105日』（かまくら春秋社）  
『少女・十四歳の原爆体験記-ヒロシマからフクシマへ』（高文研）  
『ヒロシマからの出発』（トモコーポレーション）

【歌曲・合唱曲（作詩）】

『水の祈り』（若松正司作曲）  
『組曲ひろしま』（青英権作曲）  
『美しいあしたを』（平野淳一作曲）  
『海のシンフォニー』（中西覚作曲）  
『星の生まれる夜』（萩原英彦作曲）  
『昆虫になった少年』（安達弘潮作曲）他多数

地に還るもの 天に昇るもの 橋爪文

その瞬間

鮮烈な閃光に土の粒子が総立ちした  
数えきれない生命が塵となって宙へ消え去った

一灯もない広島に夜ごと星が降る  
降りそそぐ星たちは  
あのとき飛散した土の粒子

瞬時に消えたもろもろの生命だ  
あおく あかく  
光を放ち 声を発して  
地へ還ろうとする 星  
愛する人のもとへ  
父の 母のもとへ  
我が子のもとへ  
生まれ育った大地へ

しかしそのとき  
降りしきる星の光に洗われながら  
今夜もいくつかの魂が昇天して行く

『地に還るもの 天に昇るもの』(2009年)